

I 主題設定の趣旨

《 研究主題 》

よりよい人間関係を育む授業の在り方・3年次（最終年次）

～「意思表示」に焦点を当てて～

1 研究の背景

(1) 社会の情勢から

平成21年3月に公示された特別支援学校「幼稚部・小学部・中学部・高等部 学習指導要領」では、自立活動の区分として「人間関係の形成」が新設され、「他者とのかかわりの基礎に関する事」「他者の意図や感情の理解に関する事」「自己の理解と行動の調整に関する事」「集団への参加の基礎に関する事」の4つの項目が挙げられた（文部科学省、2009）。また、厚生労働省（2009）の統計では、障害者の離職の主な原因の上位に人間関係が挙げられており、文部科学省中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、キャリア教育推進のための方策として「人間関係形成・社会形成能力を身につけるための場や機会を積極的に設けることが特に必要である。」としている。さらに、自閉症児のための初期社会性発達アセスメントの開発や人間関係にかかわる学習内容表を作成し、授業実践に活用する取り組みなど、様々な研究領域において、人間関係に関する研究が活発に行われている。以上のことから、人間関係に関する研究は、今日的な課題であると言える。

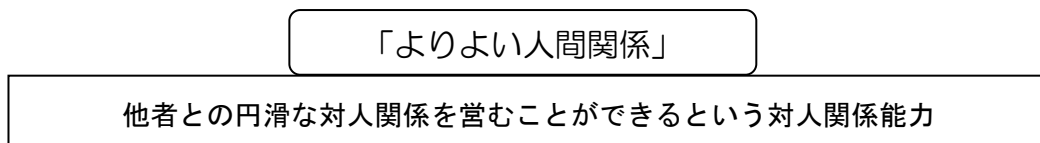
(2) 本校における課題から

本校では、平成21年度から23年度までの3年間、研究主題を「アセスメントを生かした個のニーズに応える授業づくりⅡ」と設定し、授業づくりにかかわる実践的な研究が行われた。副主題を「授業におけるアセスメント」と据え、目標設定や支援方法の設定の具体化に取り組んだ。アセスメントの内容について、個々の目標に関する内容を「指導内容」、目標達成に向けて個々の特性に応じた配慮に関する内容を「支援内容」と設定した。視点を焦点化して授業づくりや授業改善を行うことで、目標設定の具体化や支援の明確化など様々な成果が挙げられた。また、人間関係にかかわる指導内容について焦点を当てた研究も行われた。授業実践を通して洗い出した「指導内容整理表」を作成し、指導内容の焦点化や共有化を行うことができた。その一方で、指導内容の分類整理について小・中・高、各段階での検討が不十分であること、人間関係の指導内容を中心として取り上げようとするあまり、児童生徒にとって活動内容が不自然となるケースが目立つこと等が反省点として出された。それらの反省を受け、人間関係の指導内容を意識しながらも、テーマ性や児童生徒の主体性を考慮した授業づくりをすることが課題として挙げられた。また、各学部教員における課題意識に関しても、児童生徒の人間関係に関する内容が多く挙げられている。以上のことから人間関係に関する内容は、本校における重要な課題であると言える。

2 研究主題について

(1) 「よりよい人間関係」とは

人間関係と関連することばとして「社会性」ということばがある。どちらも日常的に用いられていることばであるが、その意味は明確に定義されてはおらず、人間関係と社会性の違いについて整理する必要があると考えた。繁多(1991)は社会性の定義について、最も狭義には「他者との円滑な対人関係が営むことができるという対人関係能力」、一方最も広義には「その社会が支持する生活習慣、価値規範、行動基準などに沿った行動がとれるという全般的な社会適応性」としている。本研究では、繁多の狭義の定義を引用し、研究主題の「よりよい人間関係」を「他者との円滑な対人関係を営むことができる対人関係能力」と捉えた。



(2) 「よりよい人間関係を育む授業」とは

本研究では、各授業の目標と、その中で設定した人間関係の指導内容にかかわる目標が共に達成される授業を「よりよい人間関係を育む授業」として捉える。さらには、人間関係の指導内容を設定し、指導方法の工夫を行うことが、児童生徒の主体性の高まりにつながるように、両者が独立して達成されるのではなく、互いに関連し合うことで相乗効果をもたらし、さらに「よりよい人間関係を育む授業」が展開できるのではないかと期待している。<図1>

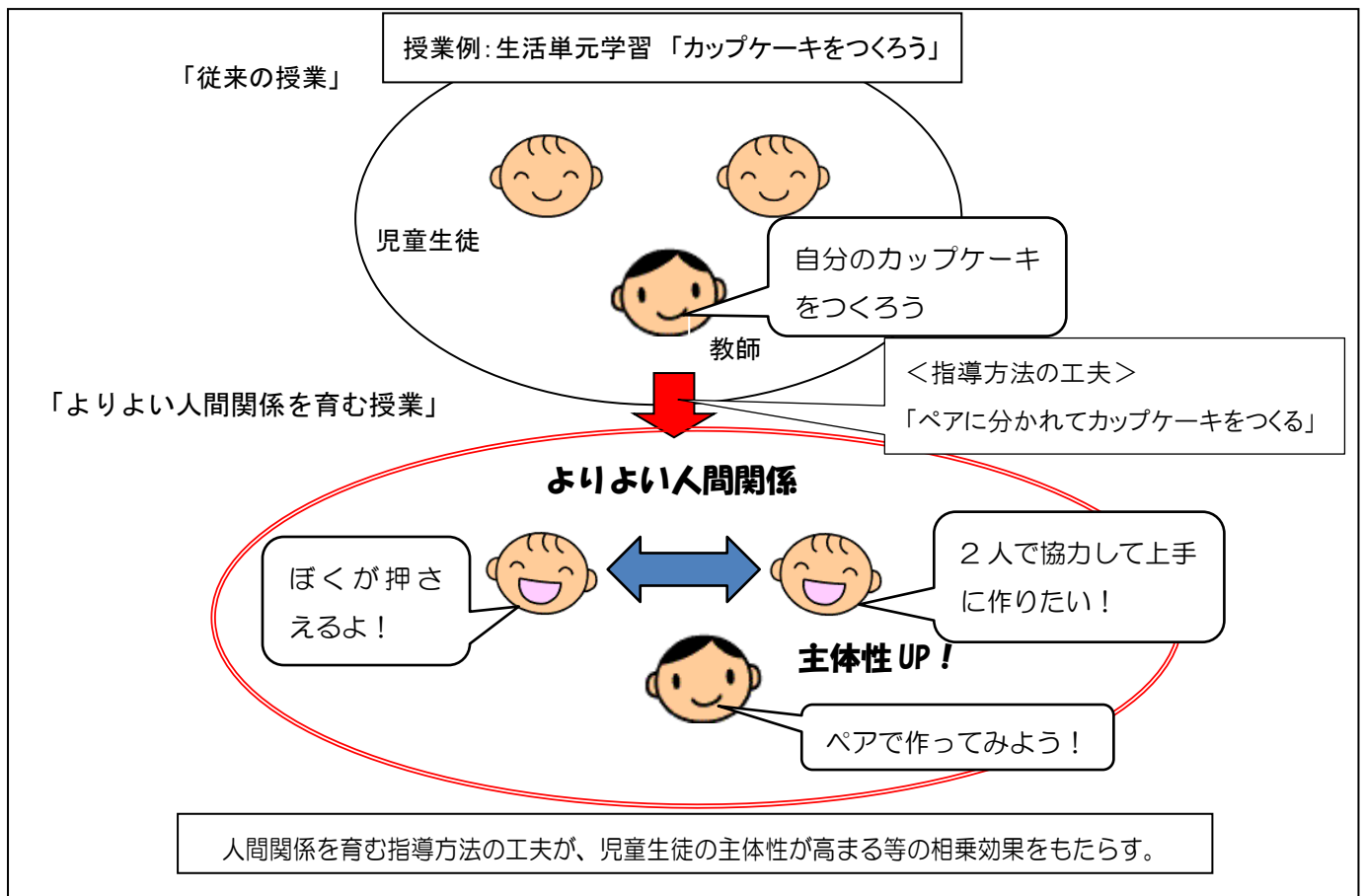


図1 よりよい人間関係を育む授業 モデル図

II 研究の計画

1 研究目的

児童生徒一人一人がよりよい人間関係を育むことができる授業の在り方を明らかにする。

2 研究仮説

人間関係の指導内容を適切に設定し、人間関係にかかわる効果的な指導方法を工夫することによって「よりよい人間関係を育む授業」を展開することができるのではないか。

3 研究内容

内容1 人間関係の視点を活用した授業分析を行い、適切な指導内容を設定する。

- ・ 「人間関係指導内容整理図」の作成及び活用
- ・ 「人間関係指導内容段階表」の作成及び活用

内容2 よりよい人間関係を育むための効果的な指導方法を明らかにする。

4 研究方法

(1) 内容1に関して

- ① 授業分析を通して、授業における人間関係の指導内容を明らかにする。それを「人間関係指導内容整理図」に反映し、視点の焦点化や共有化を図りながら授業実践を行う。
- ② 社会性や人間関係にかかわる各種文献を参考にし、人間関係の指導内容を明らかにする。
- ③ 授業分析や文献研究等で明らかになった人間関係指導内容が具現していく過程を「人間関係指導内容段階表」＜資料1＞に反映し、児童生徒の人間関係にかかわる実態把握に活用できるように整理する。

(2) 内容2に関して

- ① 「人間関係指導内容段階表」を活用し、児童生徒の人間関係にかかわる実態に合わせた指導方法の工夫を行う。
- ② 人間関係にかかわる指導方法についてまとめ、「単元（題材）実践集」に反映する。

(3) 研究全体に関して

- 福島大学や関連機関との連携を図り、専門的・客観的な視点から助言を得る。

5 研究計画（3年計画）

	内容	方法
1年次	人間関係の視点を活用した授業分析	・ 付箋紙、VTR等を用いた授業分析 ・ 文献研究 ・ 「人間関係指導内容整理図」の詳細整理
2年次	「集団参加、協力・共同」に焦点を当てた授業分析・指導方法の工夫	・ 付箋紙、VTR等を用いた授業分析 ・ 「人間関係指導内容段階表」を活用した指導方法の工夫 ・ 「実践集」の作成 ・ 「人間関係指導内容段階表」の修正・改善
3年次	「意思表示」に焦点を当てた授業分析・指導方法の工夫	・ 付箋紙、VTR等を用いた授業分析 ・ 「人間関係指導内容段階表」を活用した指導方法の工夫 ・ 「実践集」の作成 ・ 「人間関係指導内容段階表」の修正・改善 ・ 仮説の検証 ・ 研究のまとめ

Ⅲ 研究の経過

1 1年次研究の概要

1年次の研究は副主題を「人間関係の視点を活用した授業分析」として研究を進めた。人間関係の視点を活用した授業分析とは、現在の教育課程で行っている授業を人間関係の視点で分析することである。例えるならば、「今・現在の授業を“人間関係のメガネ”をかけて見つめる」ことであると言える。<図2>分析の視点に関しては、前研究で整理された「人とのやりとり」「集団活動」「自己理解・他者理解」等の視点で、今・現在行われている授業に含まれる人間関係の指導内容の洗い出しを行った。

授業分析によって洗い出された人間関係の指導内容を「児童生徒の行動に関する内容」と「行動の先行条件にあたる内容」とに大別し、前者を「行動」、後者を「理解・気付き」とした。さらに「行動」を「意思表示」「集団参加、協力・共同」「関係の構築・維持」に分類し、「理解・気付き」を「対人関係の基礎」「行動につながる知識」「行動を支える情動・自己理解」に分類した。そして、それらの内容を「人間関係指導内容整理図」としてまとめ、本研究で取り扱う指導内容を明らかにすることができた。<図3>

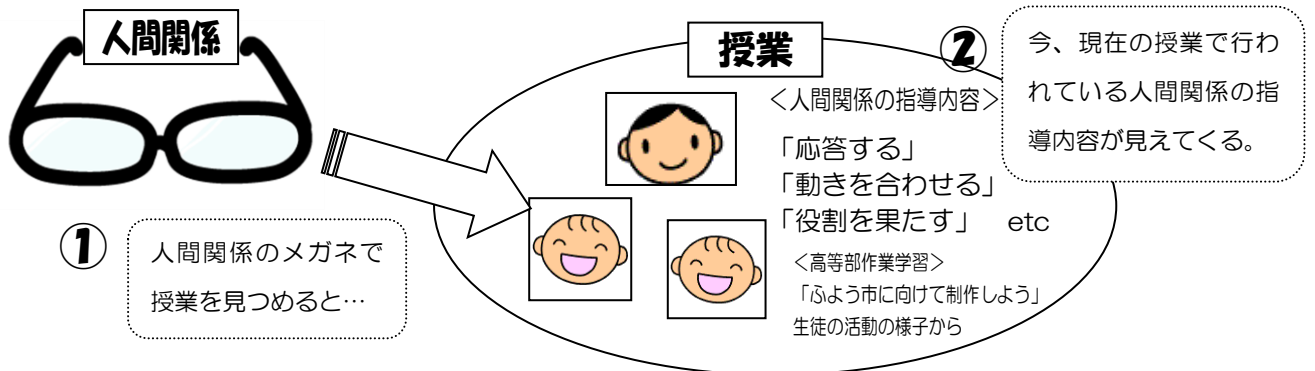


図2 人間関係の視点を活用した授業分析

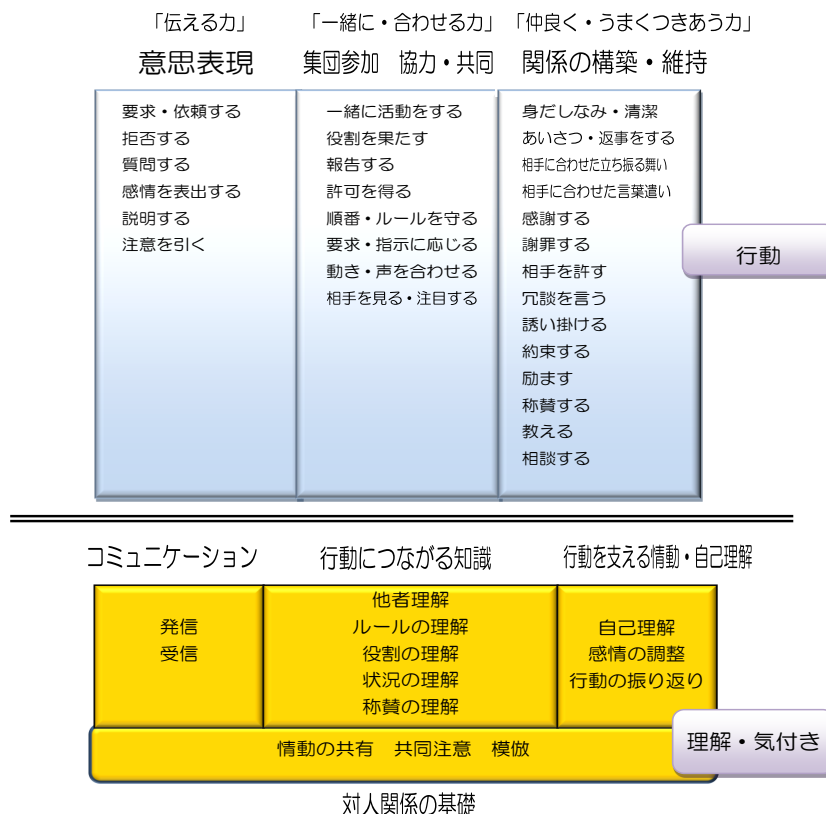


図3 人間関係指導内容段階表

2 2年次研究の概要

2年次の研究は、副主題を『「集団参加、協力・共同」に焦点を当てて』として研究を進めてきた。「集団参加、協力・共同」の指導内容に焦点を絞り、人間関係指導内容段階表を基に①適切な指導内容を設定すること、②効果的な指導方法の工夫を行うことの2点について取り組んできた。

実践タイトル	「集団参加、協力・共同」の指導機会
小学部5,6年 生活単元学習 「3くみパンをつくろう」	パン作りの際に、友達と目標（パンの種類と数）を共有しながら一緒に作業をやり遂げる。
小学部1,2年 生活単元学習 「にんじゃごっこをしよう」	ペアで行う「にんじゃ修業遊び」の際に、ペアの友達の動きに注目して、相手の状況を考え、友達を待ったり応援したり手助けしたりする。
中学部 音楽 「ボディパーカッション」	生徒同士のグループ練習や全体での発表において、リーダーの友達が提示したテンポや始まりの合図に注目し、友達と動きを合わせて一緒に表現する。
中学部 手工芸班 作業学習 「ふよう市に向けて製作しよう」	作業で困った時や作業が滞りそうな時に、自分の状況を判断し、自ら教師のところへ向かって自分なりの表現で速やかに許可や依頼を求める報告をする。
高等部 手工芸班 作業学習 「サマーフェスティバルに向けて製作しよう」	作業において友達の仕事を引き継いで自分の仕事を行い、正しく製作したものを次の友達へ手渡ししながら仕事を進める。
高等部 Iグループ 生活単元学習 「カフェを開こう」	カフェの接客班の活動において自分の役割を果たすだけでなく、周囲の状況を見て、自分が何をやる必要があるかを考えて判断して行動する。

人間関係指導内容段階表に関しては、「他者理解」や「行動の振り返り」等の「理解・気付き」に関する児童生徒の実態把握を行うために、発達心理学等の文献を参考に一般的な発達を目安として、全10段階を設定して作成した。＜資料1＞授業づくりの際に活用し、対象児童生徒の「理解・気付き」に関する実態を捉え、授業実践に生かす取り組みを行った。

適切な指導内容を設定することについては、1年次に取り組んだ「人間関係の視点を活用した授業分析」を行い、「集団参加、協力・共同」の指導の機会を設定した。各実践では、授業のテーマや児童生徒の活動の文脈に合わせて、上記した「集団参加、協力・共同」の指導機会を設定することが、よりよい人間関係を育むことだけでなく、児童生徒の主体的な取り組みの一助となった。

効果的な指導方法の工夫については、「人間関係指導内容段階表」を活用して児童生徒の「他者理解」や「役割の理解」等の「理解・気付き」に関する実態把握を行った。各実践では、児童生徒の「他者理解」や「役割の理解」の実態に合わせた言葉掛けや状況の工夫を行うことで、効果的な指導につなげることができた。また、2人組で行う「ペア活動」や4・5人で行う「グループ活動」、児童生徒の「役割をつなぐ・交代する」といった指導形態や指導方法の工夫が有効であった。さらに、各実践及び研究全体から考察し、①「集団参加、協力・共同」のために必要な条件を明らかにすることができた。＜図4＞しかしながら、児童生徒がよりよい人間関係を育むためには、限定された場面だけではなく、日常生活の様々な文脈の中で発揮できる力を身に付けることが必要であり、「行動」だけではなく「行動」の判断材料となる「理解・気付き」を育てることが課題として挙げられた。

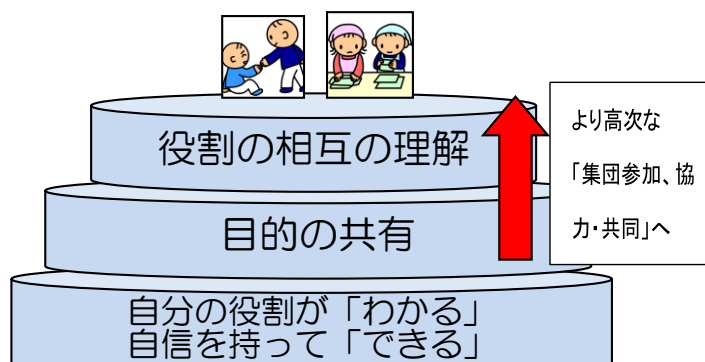


図4 「集団参加、協力・共同」のために必要な条件

3 3年次研究の概要

3年次の研究は、副主題を『「意思表示に」焦点を当てて』として研究を進めてきた。

「意思表示」の指導内容に焦点を絞り2年次と同様に、①適切な指導内容を設定すること、②効果的な指導方法の工夫を行うことの2点について以下の実践を通して取り組んできた。

実践タイトル	「意思表示」の指導機会
小学部3,4年 生活単元学習 「スーパー2くみワールド★」	ゴルフ遊びの対決場面で、ボスの役割になって、伝える相手を意識しながら友達とやりとりをする。
小学部1,2年 生活単元学習 「えのぐあそびをしよう」	絵の具を紙や段ボールにつけてダイナミックに遊ぶ活動を通して、身近な物の名前や用具、色の名前を言う。
中学部全学年 生活単元学習 「なりきりショータイム」	リーダーとしてグループの見所を説明したり、他のグループのショーを見て感想を発表したりする。
中学部全学年 生活単元学習 「ホーンテッドハウス」	お化けやしきの活動の際に、静かに待って驚かすことができたなら、信頼する教師(担任)に、そのうれしさを伝える。
高等部Iグループ 生活単元学習 「働くことについて考えよう」	働くことについて、小グループに分かれて話し合いを行い、友達の考えを聞いて理解し、自分の意見や質問を伝える。
高等部全学年 保健体育 「レッツダンス！」	動きのポイントを意識し、体を十分に使ってダンスの表現をしたり、友達のダンスの発表を見て、感想を発表したりする。

2年次の課題であった児童生徒の「理解・気付き」をどう育てるかという点に関しては、「人間関係指導内容段階表」で実態把握した内容の中で、特に「理解・気付き」の芽生えの部分に焦点を当て、指導方法の工夫を行った。「理解・気付き」の育ちを例に挙げると、実践を通して「状況の理解」の力を高めることができた生徒Aが、その力を生かし、日常生活の場面で教師の状況を考え、かかわりたい気持ちを調整して待つ姿につながっていた。他の実践においても「理解・気付き」の育ちが、日常生活の様々な文脈で発揮できる力へとつながり、実践を通して「理解・気付き」の育ちを適切に指導・支援することができたと言える。

効果的な指導方法の工夫に関しては、自分の気持ちや感想を発表する機会を適切に設けることや、児童生徒が何を聞かれ、何を話せば良いか明確に理解できる提示の仕方や振り返りの工夫等が有効であった。3年間の実践を通して得られた効果的な指導方法を「よりよい人間関係を育む指導の機会・ポイント集」としてまとめることができた。〈資料2〉

また、「行動」の背景には、「理解・気付き」に加え、児童生徒の「動機」が大きく関係し、それらを総合的に判断して「行動」していることがわかった。さらには、称賛された「結果」や「うまくできた」という「行動の振り返り」が新たな「動機」や「理解・気付き」の育ちへとつながっていた。この一連の流れを「『行動』と『行動の背景』のサイクル」としてまとめることができた。〈図5〉

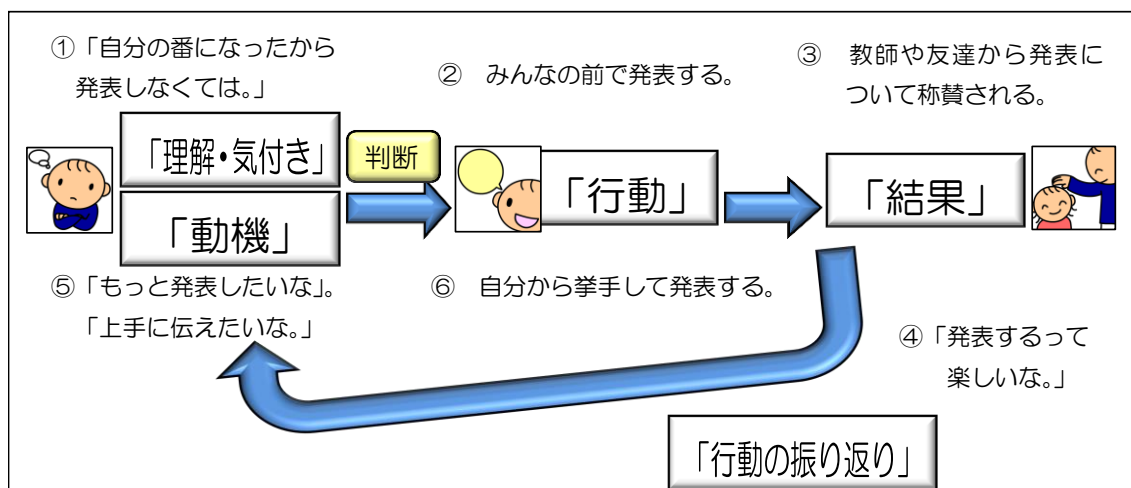


図5 「行動」と「行動の背景」のサイクル

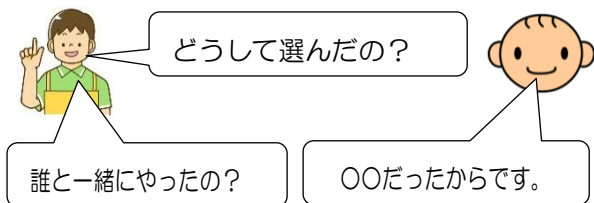
福島大学附属特別支援学校・指導内容段階表（理解・気付き）

		①	②	③	④
対人関係の基礎	模倣	□大人の動作を模倣する。	□大人の動作の模倣をする。（動作2つ、動き） ・バイバイ、おつむてんてんの模倣 □延滞模倣ができる ・その場に存在しないモデルを再現できる。	□大人の役割の模倣 ・いないいないばあを自分からする。代わりにドアを開ける。	
	共同注意	□アイコンタクトをとる。 ・大人からの働き掛けで共同注意が成立する。 ・「あ、〇〇」で対象を見る。	□子どもからの共同注意 ・指さしをする。 ・「あった」「みて」と大人を見て伝える。		
	情動の共有	□アイコンタクトの際に情動共有をする。 □大人と物を介した際に情動共有をする。	□子どもから情動共有をする。 ・大人をくすぐる・わざと失敗して大人を見る。		
コミュニケーション	発信 (言語発達)	□クーイングする。 ・「あ〜」「く〜」など話のように声を出す。 □喃語を話す。 ・「ブー」「パフパフ」	□物、ジェスチャーを伴って要求する。 ・具体物を取って、あそびに誘う。 ・写真・絵カード等を使って、行きたい場所を伝える。 □指さし機能が分化する。 ・行為の「アー」、「あった」、叙述する、応答する □1語で文やグループを表現する。 ・ワンワン→犬がいる。四足動物 □物に名前があることに気づく。	□2語文で話す。 ・「おかわり、ください。」「先生、お願いします。」「ママがおうち帰る。」「ホールに〇〇がいる。」等 □自分の名前を入れて話しをする。 ・「〇〇ちゃん、たべたい。」「 □疑問詞を用いた質問が増える。 ・「イツ?」「ドコ?」「ナニ?」 □感情に関する言葉が出る。 ・「おこった、びっくりした、すき、いや」	□動詞を用いた3語文以上の複語文で話す。 ・「ママがおうち帰る。」「ホールに〇〇がいる。」等 □一人称「ぼく」、「わたし」と言う。 □自分の氏名、性別、年齢、クラス名、先生、友達の名前が言える。 □過去の出来事や将来のことを区別して話す。 ・「昨日映画を見た。」「明日はあらちゃんちにく。」「 □「おはよう」「ありがとう」などのあいさつを自分から使うようになる。
	受信 (言語理解)	□音や言葉を聞き分け反応する。 □「ママは?」などと話し掛けると、見る。 □「はいはいしよう」など、大人の言葉を理解して行動する。 ※ 周囲の言語音と結びつけて、言葉の意味や機能を取得する。	□大人からの簡単な具体的な質問や指示に答える。 ・「目や耳、口はどこ?」などと聞く指さす。 □簡単な言葉の指示を理解する。 ・「〇〇をちょうだい」と言うと、手渡す。 □自分の名前を呼ばれると「はい」と返事をする。	□「これなあに?」「名前は?」「何食べる?」などの簡単な質問に答える。 ・名前、年齢などく身近な話題、目の前にある物に対する質問に答える。 □簡単な形容詞を理解する。 ・大きい、長い、多い □身近な単語や色の名前を理解する。 ・赤、青、黄色、動物、野菜、乗り物等 □簡単な語連鎖を理解する。 ・白い猫、座っている男の子	□身近な質問や疑問詞を理解し、考えを想起して答える。 ・「昨日どこに行った?」「ごはん何食べた?」等 □話している人を見て、興味があれば意識して聞く。 ・担任、クラスメイト、同じ学部の人の話を意識して聞く。 □位置を含んだ簡単な指示の理解 ・真ん中、上下、前後 □3語連鎖を理解する。 ・大きい赤い帽子、小さい白い犬
行動につながる知識	他者理解	□他者の行動がポジティブかネガティブかわかる。 ・ポジティブ、ネガティブの表情を比べ、ポジティブの表情を見る。手を伸ばす。 □大人が指差した対象が分かる。 ・指差した方向を見る。	□大人の喜・悲・怒・恐の表情を手掛かりに行動する。 ・大人が怒れる表情を見せた場所には行かない。 □信頼関係がとれた他者の冗談の意図が分かり始める。 ・親や担任等のかからい姿を楽しむ姿が見られる。	□喜・悲・怒・恐の感情の名前がわかり区別する。 ・「どれが怒った顔?」という質問に答える。	□人が抱く感情と外的状況のつながりを理解する。 ・積み木がうまくできず壊す=怒っている を理解する。 □相手の冗談の意図が明確に分かる。 ・子ども同士でからかい合う姿が見られる。 □表情を通じた情動の意味を的確に理解する。 ・悲しい顔と悲しい状況を的確に結び付ける。
	状況の理解	□具体物が分かる。	□物の永続性の理解 ・隠された物を探し出せる □信頼する人の表情を見て、行動を調整する。 ・怒る顔に近寄らない。にこやかな表情に進む。	□大・小・長・短・多・少など二次的な認識が可能 □「〇〇」してから「〇〇する」という見通しを理解する。	□事象の原因・結果に興味をもつ。身近な因果関係を理解する。 ・コップに水を入れすぎたからこぼれた。

資料1 「人間関係指導内容段階表」（一部抜粋）

【よりよい人間関係を育む 指導の機会・ポイント集】
「意思表示」 伝える力を育む

自分の気持ちや考えを説明する



メリット

- 自分の活動を振り返ることができる。
- 自分の気持ちを考え、整理できる。

具体例



- ・ 振り返りの時間や感想発表の場で説明する。
- ・ 活動しながら、自分の取り組みを説明する。
- ・ 自分の感想や選んだことについてさらに理由を説明する。

□ 子どもが何を聞かれているか、何を話すべきか、理解できるようにしよう

- 話し方、伝え方のモデルを具体的に示す。
例：話すポイントや話す内容をホワイトボード・黒板に書くなどして視覚化する。
- 子どもの言語理解に合わせた質問や疑問詞を精選する。
例：「どうして?」「なにが?」「Aかな?Bかな?」。イラストや写真を提示して質問する。
- 動画や画像で自分の活動を視覚的に振り返り、意思表示する。
- 話すルールを具体的に設定する。
例：話し合いで「同じ意見」「違う意見」を必ず伝えることルールとする。



文字や写真を手掛かりに発表する



タブレット端末や動画で自身の活動を振り返る

資料2 「よりよい人間関係を育む指導の機会・ポイント集」（一部抜粋）